



『向上発展は各員の和親協力を得るに非ざれば得難し』

校 長 清水 一司

平日開催となったにもかかわらず、今年の本校文化祭にも200名を超える保護者や地域の皆様にお運びいただきました。ありがとうございました。国語科プレゼンテーションやG・S弁論（英語弁論）、NZ研修報告、文化部発表などをご覧いただき、本校教育活動の成果や本校生徒の豊かな表現力、創造力をご確認いただけたものと思います。

先日、松下電器産業（現 Panasonic）の創業者である松下幸之助氏のエピソードに触れました。この中で幸之助は10歳の頃に奉公した自転車店で礼儀作法や商売の基礎を身に付けたと語っています。この奉公先には休暇らしい休暇がなく、早朝から夜遅くまで働きずくめだったといえます。現在であれば、様々な法令に抵触しそうですが、幸之助の少年時代（今から約120年前）ではそれが一般的だったのでしょう。

その頃の幸之助は来店客にタバコを買ってきてくれとよく頼まれたそうです。幸之助はその都度、仕事の手を止めてタバコ屋に走ったそうですが、このことに無駄を感じタバコをまとめ買いして店に置くことを思い付きました。当時、タバコを20個まとめ買いすると1個のおまけがついたようで、その分が儲けになります。幸之助はタバコをまとめ買いをすることでおまけ分の利益と時間の両方を手に入れることができたのです。10歳としてはすごい知恵です。幼い時から商才に恵まれていたのかもしれませんが。しかし店の仲間にとっては利益をあげている幸之助の行動が面白くなかったようで「金儲けはけしからん」と激しい嫉妬を受け、結果的にタバコのまとめ買いを諦めることになりました。幸之助は後に、この経験から人間関係の難しさを学んだと語っています。

Panasonic のHPに従業員信条として『向上発展は各員の和親協力を得るに非ざれば得難し』とありました。「社会の発展に貢献していくためには、まず全員が協力し、心を合わせる事が重要である」あるいは「自社の向上発展は、まず全員が協力し、心を合わせる事が重要である」と読み取れます。まずは良好な人間関係を築くことが重要だということです。この考え方は、幸之助が自転車店で奉公していた時の経験も影響しているのでしょう。

良好な人間関係を築く力を机上の学習だけで身に付けることは極めて困難です。ましてや、今の子どもたちに少年時代の幸之助と同じ経験をさせることは不可能です。良好な人間関係を築く力を身に付けることの重要性が叫ばれているものの、時代の変化がそれを難しくしています。学校教育において子どもたちに良好な人間関係を築く力をどのように身に付けさせるのか…。文化祭はこの力を身に付けさせる重要な機会であると考えています。（参考 PHP 2024年9月号）